

# 北のとびら

vol. 113

平成29年11月

## 特集

アーティスト アサダワタル  
インタビュー

表現活動は社会活動。  
記憶を呼び覚ます音楽の力で  
コミュニティに働きかける。

この人に注目

村場 踊

アートの子カラを考える  
シアターネットかんげき

街歩きアート

美しい湖に抱かれた、  
自然とともにあるアート  
[洞爺湖町]

エッセイ

長嶋 有

表紙作家の紹介

磯 優子



1979年生まれ。大阪出身・東京在住。アーティスト。オフィス事編kotoami代表、大阪市立大学都市研究プラザ博士研究員。サウンドメディアプロジェクト「SjQ/SjQ++」ドラマー。

音楽や言葉(概念)の創作実演、文化事業(アートプロジェクト)の企画、著述出版などを通じて、人々の日常生活ときわめて近接した文化活動を展開。まちづくりや障害福祉、住宅政策やキャリアデザインなど多岐にわたる分野で、個性と創造性がのびのびと活かされるコミュニティづくりに動いている。著作に『住み開き 家から始めるコミュニティ』(筑摩書房)、『コミュニティ難民のススメ 表現と仕事のハザマにあること』(木楽舎)など。

# 表現活動は社会活動。 記憶を呼び覚ます音楽の力で コミュニティに働きかける。

2017年の夏、斜里町立知床ウトロ学校の子どもたちとアーティストのアサダワタルさんが、校歌のカラオケ映像を作るワークショップを行いました。「音楽と記憶」をテーマにコミュニティづくりに関わる活動を幅広く展開しているアサダさんに、ワークショップと自身の活動について伺いました。

校歌のカラオケ映像が  
記憶再生のアイテムに

知床ウトロ学校は2016年に全国初の義務教育学校(小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校)として誕生し、1年生から9年生まで全校生徒74名が同じ校舎で学んでいる学校です。前身のウトロ小・中学校としての誕生から数えると今年で創立100周年にあたるということで、今回のワークショップで制作した校歌のカラオケ映像は、その記念ともなればと思っています。

撮影期間は1週間。授業時間ではなく休み時間や放課後などに、僕が子どもたちに呼びかけて撮影



しました。先生的な立場で指示するのではなく、子どもたちの日常に関わっていく形を心がけました。制作の拠点は、子どもたちが教室移動のたびに通るオープンスペースを選んで設置しました。机を並べ、あえて大きなモニターやパソコンを置き、スタジオらしい雰囲気演出。日常に違和感を持ち込んで「何か始まりそうだな」という期待感を煽ったのです。好奇心旺盛な子どもたちがすぐに寄ってきたので「校歌のカラオケを作りに来たんだよ」「ちょっと歌ってみて」とお願いし、その日のうちにデモ音源を収録しました。

撮影は、校歌を15のフレーズに分けて、それに合う風景を子どもたちが探すという方法で進めました。通学路や校庭、教室やクラブ活動の様子などを、子どもたちや先生に登場してもらいながら撮影しました。

映像にテロップとして入れる歌詞は、子どもたちに一人1文字ずつ習字で書いてもらいました。1文字なら時間もかからないし、恥ずかしがりの子でも参加しやすいですからね。



※知床ウトロ学校×アサダワタル「校歌のオリジナルカラオケ映像制作ワークショップ」は、北海道文化財団「アート体感教室事業」として実施しました。

最後に、なるべく多くの子に呼びかけて集まってもらい、校歌を合唱してレコーディング。これを僕が持ち帰って編集し、映像を仕上げました。

ワークショップでの僕の役割は、学校というコミュニティに非日常的なものを持ち込むこと。いつもとは違う体験や関わりの中で、子どもたちが「いつもの関係」についてちょっととした新しい視点を持つ瞬間があればいいな、と思っています。そのことに気が付くのは、もしかしたら遠い未来なのかもしれません。

### 共有する音を編集し 地域の記憶を掘り起こす

校歌のカラオケ映像は、子どもたちや関係者が今見ても楽しいものですが、何十年後かの同窓会でも、見聞きすれば小学校の思い出が蘇って会話が弾む、記憶の再生アイテムとなってくれることを願っています。

僕は「音楽と記憶」をテーマに様々な活動をしています。現在、長期的に関わっているプロジェクトの一つが、福島第一原発の事故で帰宅困難区域となった街の人たちが移住した、いわき市の下神白団地のコミュニティづくりです。

住民の中には、部屋を引きこもっていて集会所にも顔を出さない。出せないという方がいます。そういった方とのコミュニケーションのために、音楽ラジオ番組の制作を始めました。まずは住人に、若い頃にどんな音楽を聴いていたのかを取材。10代の頃に聴いた曲、就職のために上京したときに流行っていた歌、街に戻ってきたときに常磐ハワイアンセンターのライブで聴いた音楽など、どんどん出てきました。それを収録して、曲を入れて編集してCDを作り、全戸に配布したのです。

これは、音楽を切り口としてそれぞれの年代の方に当時の街の記憶を語ってもらい、番組(CD)を通して互いに聴き合うという形でコミュニケーションづくりです。この方法なら、震災に直接触れることなく街の記憶を共有できる。CDをきっかけに「あの頃のあの曲も聴きたい」というリクエストの手紙を書いてくれる人も現

れて、少しずつコミュニケーションが広がっています。

僕は元々、ドラマーとしてバンドやソロでの音楽活動をしていました。20代前半に大阪の芸術系NPOのスタッフになったのがきっかけで、地域コミュニティに関わりながらのアートプロジェクトを企画するように。子どもたちや高齢者、障がいのある方と交流する中で、自分の表現活動の幅も広がり、「場づくり」「コミュニケーションづくり」をテーマとしたプロジェクトを手がけるようになりました。

僕は最初から、表現やアートが純粹なもの、孤高のものというイメージを持っていません。どんな純粹な思いで創作しても、創作物は基本的にはなんらかの社会の文脈の中に引き取られます。表現とは、人と関わる中で作られていくもの。その意味では、手段でも目的でもなく、表現活動は社会活動そのものだと思います。

### 特集

アーティスト  
アサダワタル  
インタビュ



# 村場 踊

Odori Muraba



2016年12月上演「いっすんさきは夢」の「狸囃子」



2016年12月上演「いっすんさきは夢」の「皁月新太鼓」

「中学生のときには、芸で生きていくことが決まっていた」。共に音楽家である父・辰彦さんと母・容子さん、美術家の伯父・亀田厚彦さんを中心に「新芸能集団・乱拍子」が結成されたのは、四男である踊さんが小学校6年生のときでした。団員となった息子に「他の道もあるが」と言いつつ大きな期待を寄せる母の言葉に、踊さんは芸ごとが好きだったこともあって「やるしかないな」と気持ちを固めたと言います。

乱拍子は、太鼓を中心とした音楽と踊りに神楽のような芝居の要素を取り入れて、現代の北海道らしい芸能の創作を試みている団体です。劇場での自主公演も年1回以上行っていますが、舞台だけに特化はせず、地元の祭りやイベントに積極的に参加するなど、劇場に足を運べない人にも気軽に楽しんでもらえるような、人々の暮らしに寄り添う芸能を目指しています。獅子舞での門付や、学校、保育園、商業スペースや海外での公演まで含めると、近年は年間200以上の公演を実施しているとのこと。

踊さんは幼少期から和太鼓とピアノを学び、小学校1年生で太鼓での初舞台を経験。その後、日本舞踊荻井流に弟子入り（現在は名取）、西川古柳師匠（八王子車人形）と札幌人形浄瑠璃芝居あしり座に人形浄瑠璃を学ぶなど、乱拍子の芸の幅を広げる経験を積んできました。20歳から演劇に関わるようになったのも、乱拍子の舞台づくりに活かすため。公演を重ねるとともにお客様の見る目も高くなり、ステージングを工夫する必要性を感じていたと言います。現在では乱拍子の舞台構成や演出も踊さんが手がけており、「日本の伝統芸能を細分すると1万種類以上あるともいいますが、それを自分なりに再発見して取り入れ、芸を洗練させていきたい」と語ります。

「自分は学ぶ環境に恵まれてきただけ、才能があるわけではない」と謙遜する踊さん。個人の芸能家としての夢はシルクドソレイユへの出演。そのために、まずは数年以内に日本太鼓協会主催の大会での優勝という目標に向けて意欲を燃やしています。

## ■公演情報

新芸能集団 乱拍子 自主公演『命の音(こえ)』  
期日/平成29年12月8日(金)～10日(日)  
会場/やまびこ座(札幌市東区北27条東15丁目)  
問い合わせ/乱拍子事務局 ☎011-855-2029

## アートのチカラを考える①

### シアターネットかんげき

## 小さなまちのホールが集い 優れた舞台作品を共同で招聘

「広大な北海道のどんな小さな町に住んでいても、優れた舞台芸術に触れる機会を」。この理念のもと作られた組織が、今年20周年を迎えるシアターネットかんげき(以下、シアターネット)です。北海道内の公共ホール管理者など演劇公演を招聘・主催する26団体が加盟、その3分の1は人口1万人以下、3千～5千人程度の規模の町にあります。「高い評価を受けている舞台作品の多くは東京で制作されています。招



平成29年度招聘公演 NLTプロデュース  
『嫁も姑も皆幽霊』



平成29年度招聘公演 中尾ミエプロデュース  
『ザ・デイサービス・ショウ ～It's Only Rock'n Roll～』

化財団主催)の翌年、音更町、端野町(現北見市)、朝日町(現士別市)などの8団体によってシアターネットが誕生。当初は年に1～2作品を招聘し、条件の合う団体に声をかけて参加してもらうゆるやかなつながりでした。数年で認知度が高まり加盟団体が20を超え、現在では年間7～8作品を招聘。これまでに道内で展開してきた演劇公演は132公演・682ステージ(平成28年現在)に及びます。「公共ホールでは、人事異動で担当者が変わることが避けられない。シアターネットの中にノウハウを蓄積することで、招聘経験の少ない団体や担当者であってもスムーズに事業を展開できる形が作られています」と、シアターネット代表の漢幸雄さん(あさひサンライズホール館長)は言います。ホールのない地域であっても熱意があれば、シアターネットからのノウハウの提供で、体育館などを活用しての公演が可能な状況も作られています。

演劇公演の共同招聘を目的として20年に渡って活発に活動が続いている組織は、全国でも稀です。「理念と組織を次世代に引き継いでいきたい」と、永続できる体制づくりを進めています。

美しい湖に抱かれた、  
自然とともにあるアート

【洞爺湖町】

洞爺湖、有珠山、内浦湾（噴火湾）と、さまざまな環境を有する洞爺湖町。  
2008年に「北海道洞爺湖サミット」が開催され、  
翌年には洞爺湖有珠山エリアが日本初の世界ジオパークに。  
最近では周辺地域が映画のロケ地になるなど、話題は尽きません。  
湖の独特の景観は多くのアーティストを惹きつけ、  
ものづくりの発想を刺激し続けています。



透明なガラスに込めた物語

glass cafe gla\_gla (グラスカフェ グラグラ)

宙吹き技法のガラス作家・高臣(たかとみ)大介さんのショップ&カフェ。どこまでも透明で有機的フォルムのガラス作品が展示・販売されています。

作品には一つひとつに「燃える男はロック!」「水に咲く。」「小宇宙」などのタイトルが。「作るのはタイトルから。そこから物語や詩が浮かんで、実際に形にしていけます」と高臣さんは言います。また、形状はグラスや皿でも用途をはっきり決めず、「実際に使って生きるもの、であることだけをイメージして制作しているそうです。



ガラス作家・高臣大介さん

光、影、水、音による変化を見極める確かな技術によって完成する、ごまかしのきかない透明なガラス作品。高臣さんは今年、フランスでの作品展に参加し、現地で制作も経験して、ガラスの質の違いなどに刺激を受けたとのこと。海外進出も視野に入れた、新たなグラグラの物語が始まっています。



一輪挿し「水に咲く。」  
水を満たせば  
別の世界が現れる



花器と食器、両方で使える自由度が  
ガラスならではの



窓辺の透明なガラスが光を映す  
ガラスならではの

● 虻田郡洞爺湖町月浦44-517 ☎0142-75-3262  
営業時間 平日12:00~17:00 土・日・祝11:00~17:00 不定休  
glagla.jp

ノミ跡は人生の足跡

カフェ・ギャラリー 壺・木間工房 SYU

クルミの木のドアがかわいらしい、木彫作家・荒井修さんのギャラリー兼奥様の禮子さんによるカフェ。となりの工房で作られた荒井さんの作品は、サンショウウオなどの生き物を彫った具象から抽象的な作品に至るまで、自然にあるようなぬくもりと親しみが宿っています。「生き物の造形や、うごめく感じがおもしろい」と荒井さん。木の魅力が生きるよう、ノミ跡はあえて磨かず仕上っているそうです。

荒井さんは若いころ、ある抽象彫刻家と出会い木彫の道へ。その後、縁あって砂澤ピッキさんと親交を持ちました。この2人の作家に大きな影響を受けながら、オリジナルリティを追求し続けて50年。どこかユーモラスな中にも、「ノミ跡は、自分が生きてきた足跡」として、一心に刻んできた長い年月を感じられるはずです。



カフェで使うスプーンや椅子のほか、  
抽象的な作品も制作



木のぬくもりに溢れた店内



クルミの木のドアも  
荒井さんの手作り

● 虻田郡洞爺湖町高砂町116-60  
☎0142-76-3597  
営業時間 11:00~18:00  
定休日 火・水  
www7b.biglobe.ne.jp/~syu-moku/



木彫作家・荒井修さん

◇本当の豊かな暮らし、を提案 ラムヤート

「ラムヤート」は、逆から読めば洞爺村。旧洞爺村だった湖の北側に、店主の今野満寿喜(ますき)さんが移住したのは2006年、洞爺湖町となった年でした。本当に必要なものだけの暮らしを实践する場所として、築70年という元商店を自ら改装し、手作りの石窯で焼くパンの販売を開始。また、地元農家の無農薬の野菜でオリジナルの加工品を製造、隣の商店「toita(トイタ)」で販売するなど、洞爺という空間にあるものを活用することで、今野さんが考える「豊かな暮らし」を提案しています。



店主の今野満寿喜さん

秋には「湖人(コビト)祭り」を主催し、自ら何かを作り出すことの楽しさや大切さを、大人から子どもたちへ伝える活動も。ラムヤートは、まさに小さな村のように、地域の暮らしと文化の拠点となっています。

● 虻田郡洞爺湖町洞爺町128-10 ☎0142-87-2250  
営業時間 10:00~16:00  
営業日 土・日・祝 ※1~3月まで冬期休業  
(toita営業時間10:00~16:00/定休日 火・水)  
laketoya108.wixsite.com/laketoya/blank-c8bb



洞爺湖が舞台の映画に登場した、  
再利用レンガの石窯



まわりにも暮らしにまつわる  
個性的な店が並び、小さな村のよう

洞爺地域の芸術の出発点

洞爺湖芸術館

2007年、旧洞爺村役場を改築してオープン。1952年(昭和27年)築のレトロな雰囲気のある建物に、過去8回開催された国際公募展「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」の作品や、北海道を代表する彫刻家・砂澤ピッキさんの作品群、写真家・並河万里さんの作品などが常設展示されています。

洞爺湖周辺では1980年代から、湖の景観にふさわしい「芸術と文化のエリアづくり」が進められてきました。およそ43kmに及ぶ湖畔沿いの「とうや湖ぐるっと彫刻公園」は、1977年の有珠山噴火災害の復興10周年を記念して、安田侃さんの彫刻作品を設置したことからスタート。現在では58基の野外彫刻が設置されています。1993年から2007年まで開催された「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」展では、手のひらの宇宙、をテーマに20×30×40センチ以内で制作された彫刻作品を公募・審査しました。洞爺湖芸術館では同展での入賞・受賞作品86点を収蔵し、展示しているほか、ビエンナーレの図録制作に携わった方からの寄贈による近現代文学の初版本や限定本のコレクションも展示しています。

洞爺湖芸術館での特別展やイベントは、指定管理団体・洞爺湖芸術館友の会の協力のもと企画・運営しています。9月から行われていた美術家・阿部典英さんの特別展は、メンバーがそのユニークな作風に惚れ込んで実現した企画。ピッキさんとも親交が深かったという氏の遊び心溢れる展示となりました。

また、彫刻公園でのフォトツアーや、夕日が沈む湖を背景にギャラリーコンサートも開催されており、洞爺地域に残された芸術という大きな財産を、五感で味わうことができます。



1階の砂澤ピッキさんの展示室。絶筆などの貴重な作品も



「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」入賞・受賞作品の常設展示



2階のビエンナーレの展示室では、特別展も開催  
(写真は阿部典英さんの展示)

● 虻田郡洞爺湖町洞爺町96  
☎0142-87-2525  
開館時間 10・11月 9:00~16:00、4・5月 ~17:00、6~9月 ~18:00  
休館日 月(祝日の場合は翌日)、12~3月まで冬期休館  
観覧料 一般300円、高校生200円、小中学生100円  
www.geijutukan.neto.jp/tourism/art\_culture/atc001/



とうや湖ぐるっと彫刻公園の作品(丸山隆「残留応力」)

## 表紙作家の紹介



「祈りの細胞」より

### 磯 優子 イラストレーター

Yuko Iso

1989年釧路生まれ。札幌在住。  
札幌大谷大学短期大学部 専攻科美術専攻 デザインコース修了。  
グラフィックデザイナー兼イラストレーターとして活動中。女性性をテーマに、肉体のもつ美しさを追求して絵を描く。CGと版画の転写技法を組み合わせ、紙そのものが持つやわらかな質感を活かした独特の作品を制作。女性10名の作家グループ「文無商會スッテンテン」に所属。



エッセイ②  
文 | 長嶋 有  
Yu Nagashima

## 蟹と俺だけ知ってる

国道36号線沿いの蟹の巨大看板が台風で壊れた。母がメールで知らせてくれた。へえ、と思った。

愛着や思い入れがあるわけでもないし、その看板の店に立ち寄って買い物をしたこともない。大人になっていろんな地方都市にいくと、似たような巨大（なだけの）オブジェ看板をよくみるようになり、安直さにも気付いてしまった。

とはいえ、僕が小学生のころからずっとある看板だ。ずっとあると、それはもう「景色」である。後年、店の屋根に呆れるほど巨大な木彫りの熊と鮭も追加されたが、それは新参者、あくまで蟹が元祖っすよ、みたいに、蟹にだけわずかな敬意があった。

最初期の蟹は、ハリボテではなく脚が機械で動いていた。幌別と、祖父母の家のある白老と、36号線を何度も往復した。国道沿いだから車移動でも目立つよう巨大に設えるわけだが、車は速すぎて、蟹の脚の動きがみえなかった。あるとき思いつきで、幌別から白老まで歩いてみようと家族で出かけた。殺風景で、

車の勢いの激しい、まっすぐなだけの道沿いを半日以上かけて歩いて、一番の発見が「巨大蟹が人知れず脚を動かしていたこと」だった。

地元のニュースになった蟹損壊のテレビ映像を母が送ってくれてまた驚いたのは、蟹の背後の台風一過の青空だ。記憶の中の36号線はいつも曇天だった。

画家の奈良美智氏がたまたま付近を旅していて、落下した蟹の巨大脚が草むらに落ちていた。安直な客寄せの蟹が画家のおかげで最後にアートになったわけだが、その画像も僕にだけ信じられない青空だった。蟹と僕は知っている、ずっと曇天だったのだ。



長嶋 有  
(ながしま ゆう)  
作家

1972年生まれ。『猛スピードで母は』で第126回芥川賞、『夕子ちゃんの近道』で第1回大江健三郎賞、『三の隣は五号室』で第52回谷崎潤一郎賞を受賞。著作に『もう生まれたくない』『フキンシンちゃん』『観なかった映画』など。

※次号のエッセイも長嶋有さんが担当します



「私という重なり」より

### [主な個展]

- 2016年11月「祈りの細胞」／カフェエスキス (札幌)
- 2016年7月「鮮やかな気配」／美容室 KIITOS (札幌)
- 2015年12月「今日はただ躍るだけ」／大洋ギャラリー (札幌)

2013年8月 「ニュースター展 Dechnopolis」／

ギャラリーNEW STAR (札幌)

2012年3月 文無商會スッテンテン「スッテンテン博覧會」／

オノベカ (札幌)

### [主なグループ展]

- 2017年10月「mon♥mon 縄文展」／カフェエスキス (札幌)
- 2016年6月「空なる水は待ち侘びて」／大丸藤井セントラルスカイホール (札幌)
- 2015年8月 文無商會スッテンテン「せのびさわらびすってんてん」／SAWARABITERRACE (十勝清水)
- 2015年9月「北の燐寸アート展」／ヒアラタアートスタジオ (苫小牧)
- 2014年5月 文無商會スッテンテン「企みと試み」／ほくせんギャラリーivory (札幌)
- 2014年9月「北の燐寸アート展」／ヒアラタアートスタジオ (苫小牧)
- 2014年9月「北の燐寸アート展」／ギャラリー犬養 (札幌)

### [参加イベント]

- 2017年6月 Ennui&織原良次&磯優子「無垢な人」アルバムリリース展示・演奏会／鴨々堂 (札幌)
- 2017年5月「MUSIC AWORD2017」CDジャケットイラストノミネート展示 (東京・恵比寿)
- 2017年3月「Anonymous camp Tokyo Vol.0」／マーチエキュート (東京・千代田)
- 2016年4月 シャムキャッツ主催「EASY TOUR 2016」EASY ZINE SHOP／ベッシーホール (札幌)

### ◎北海道文化財団アートスペース企画展 vol.34

磯 優子 個展「私という重なり」  
会 期：平成29年12月11日(月)～平成30年3月2日(金) 9:00～17:00  
休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。  
会 場：北海道文化財団アートスペース (札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)  
入場料：無料

## 財団事業インフォメーション（平成29年12月～平成30年3月）

## 若手芸術家発表事業

## ●赤れんが音楽会

## Vol.1 蛇池雅人カルテット（ジャズカルテット）

日時：平成29年12月9日（土）14：00開演（13：30開場）



蛇池雅人カルテット

## Vol.2 クアルテットポップ（弦楽アンサンブル）

日時：平成30年1月27日（土）14：00開演（13：30開場）



クアルテットポップ

会場：北海道庁旧赤れんが庁舎 2階会議室  
（札幌市中央区北3条西6丁目）

入場料：無料

問い合わせ：（公財）北海道文化財団

☎ 011-272-0501

## 文化の宅配便事業

## ●Ezo'n 浜中町公演

日時：平成29年12月1日（金）13：30開演（13：00開場）

会場：浜中町総合文化センター

（浜中町霧多布西3条1丁目47番地）

入場料：無料

問い合わせ：浜中町総合文化センター

☎ 0153-62-3131

## 舞台創造支援事業

●あさひ“発”・教職員演劇製作事業  
（センセイノチカラ公演）

日時：平成29年12月9日（土）14：00開演（13：30開場）

会場：あさひサンライズホール

（土別市朝日町中央4038）

入場料：無料

問い合わせ：あさひサンライズホール

☎ 0165-28-3146

## まちの文化創造事業

●とままえ町民劇10周年記念  
オリジナル演劇公演「結婚しようよ」

日時：平成29年12月16日（土）14：30開演（14：00開場）

会場：苫前町公民館（苫前町字古丹別187番地の15）

入場料：300円 ＊高校生以下無料

問い合わせ：苫前町公民館

☎ 0164-65-4076

●オムニバス演劇  
旭川豆芝居5「うたえ！家族の歌合戦」

日時：平成30年2月3日（土）19：00開演（18：30開場）

平成30年2月4日（日）13：00開演（12：30開場）

会場：旭川市公会堂（旭川市常盤公園内）

入場料：一般1,000円（割引チケット有）

高校生以下無料（要整理券）

問い合わせ：まちなかぶんか小屋

☎ 0166-23-2801

## アートシアター鑑賞事業

## ●トム・プロジェクト「東おんなに京おんな」

日時：平成29年12月4日（月）19：00開演（18：30開場）

会場：あさひサンライズホール

（土別市朝日町中央4038）

入場料：3,000円

問い合わせ：ARCHあさひ ☎ 0165-28-3146

## ●Crann Fields「アイリッシュ音楽会」

日時：平成30年1月27日（土）14：00開演（13：30開場）

会場：標津町生涯学習センター

（標津町南1条西5丁目5-3）

入場料：500円

問い合わせ：標津町文化協会 ☎ 0153-82-2900

## ●東京プラススタイル「ジブリ・パーティー2017」

日時：平成30年2月24日（土）15：00開演（14：30開場）

会場：豊頃町える夢館（豊頃町茂岩本町166）

入場料：大人1,000円 学生500円

問い合わせ：豊頃町教育委員会 ☎ 015-579-5801

## ●あかちゃんママのジャズデビュー

日時：平成30年3月10日（土）10：30開演（10：00開場）

会場：奈井江町文化ホール

（奈井江町字奈井江町243-24）

入場料：1,000円

問い合わせ：奈井江町教育委員会

☎ 0125-65-5311